

バイオマス取組事例概要

東北

(平成18年度バイオマス利活用優良表彰 バイオマス活用協議会会長賞)

・応募主体 岩手県紫波町

・都道府県・市町村 岩手県紫波町

・取組分野 堆肥化、木質バイオマス(ペレット)

取組概要

家畜排せつ物、食品残渣等を堆肥化、製材所残材等からペレット等を製造し、「循環型まちづくり」を推進。

町運営の「エコ3センター」において、家畜排泄物(牛・豚・鶏)(2609t/年)、食堂・スーパー等食品事業者からの食品残渣(305t/年)、もみ殻(224t/年)、間伐材等から製造した粉炭を利用し良質な堆肥(999t/年)を製造し、町内農家に販売。堆肥利用農作物は地産地消の一環として学校給食に使用するほか、町内に9箇所ある産直施設等で販売し、安全・安心な農産物としての紫波ブランドの確立を図る。

また、森林組合や町内製材業者からの製材所残材、間伐材(281t/年)を原料として木質ペレット(89t/年)、粉炭(6t/年)、木酢液を製造。木質ペレットを町内の小学校・保育園(各1箇所)のボイラーや町内公共施設のストーブ(6台)の燃料として利用。木質ペレットの普及を進めるため、事業所、家庭におけるペレットストーブの購入に対して助成。

さらに、家庭生ごみは清掃センター(3市町で構成)で堆肥化。エコ3センター搬入以外の家畜排泄物は畜産農家が自ら堆肥化。

紫波町では、平成13年に「循環型まちづくり条例」、「環境・循環基本計画」を制定し、行政・町民・事業者一体の循環型まちづくり推進により、家畜排泄物94%(H16)、製材残材97%(H16)の利活用を達成。

